

がん患者リハビリテーション

(がん患者リハビリテーション 認定施設)

がん患者リハビリテーションの対象患者さま

| | |
|------|--|
| 周術期 | 食道がん、胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、大腸がん又は膵臓がんと診断された患者であって、これらのがんの治療のために入院している間に閉鎖循環式全身麻酔による手術が行われる予定のもの又は行われたもの 乳がんと診断された患者であって、乳がんの治療のために入院している間にリンパ節郭清を伴う乳腺悪性腫瘍手術が行われる予定のもの又は行われたもの |
| 緩和ケア | 緩和ケアを目的とした治療を行っている進行がん又は末期がんの患者であって、症状の増悪により入院している間に在宅復帰を目的としたリハビリテーションが必要なもの |

がんリハビリテーションの目的

がんのリハビリテーションは、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションの4つの段階に分けられます。

- ①予防的:がん診断後の早期(手術などの治療の前から)に開始。機能障害が生じていない段階からその予防を目的とする。
- ②回復的:機能障害、能力低下の存在する患者さまに対して、最大限の機能回復を図る。
- ③維持的:腫瘍が増大し、機能障害が増大しつつある患者のセルフケア、運動能力を維持・改善することを試みる。自助具の使用、動作のコツ、拘縮、筋力低下など廃用予防の訓練も含む。
- ④緩和的:末期のがん患者さまに対して、その要望(demands)を尊重しながら、身体的、精神的、社会的にも QOL の高い生活が送れるように援助する。

当院におけるリハビリテーションの取り組み

当院では主に外科病棟にて①予防的、②回復期なリハビリテーションを提供し、主に緩和ケア病棟にて③維持的、④緩和的リハビリテーションの提供を行っています。

開胸開腹術後は肺活量が術前と比べて著しく低下します。これは一般的に数日～1週間程度続きます。また、術後は創部の痛みなどにより咳を出しにくくなり、気道内に分泌物が貯留しやすくなります。これらが原因で生じる呼吸機能障害の予防目的に術前呼吸リハビリテーション指導を実施しています。

また、術後の呼吸機能回復や筋力の回復目的に早期離床訓練や、筋力増強訓練、自転車エルゴメーターやトレッドミル等を利用した有酸素運動を実施しています。

リンパ節郭清を伴う乳がん術後は肩関節の可動域制限や疼痛が高頻度で起こる為、予防目的、回復目的に適切なタイミングでの関節可動域訓練や筋力増強訓練、パンフレットを用いた生活指導等を実施しています。

入院加療中、疼痛、感染症、栄養障害、睡眠障害、倦怠感、身体活動量の低下、全身体力の低下、ストレスなどの心理的要因もあり、がん患者さまの QOL は低下しやすい状況にあります。これらの軽減目的にリラクゼーションや局所的な関節可動域訓練、筋力増強訓練、基本動作、移乗動作といった動作訓練を施行しています。

当院にはがんリハビリテーション研修を修了したセラピストが常勤しております。